

起

金松堂

壽梓

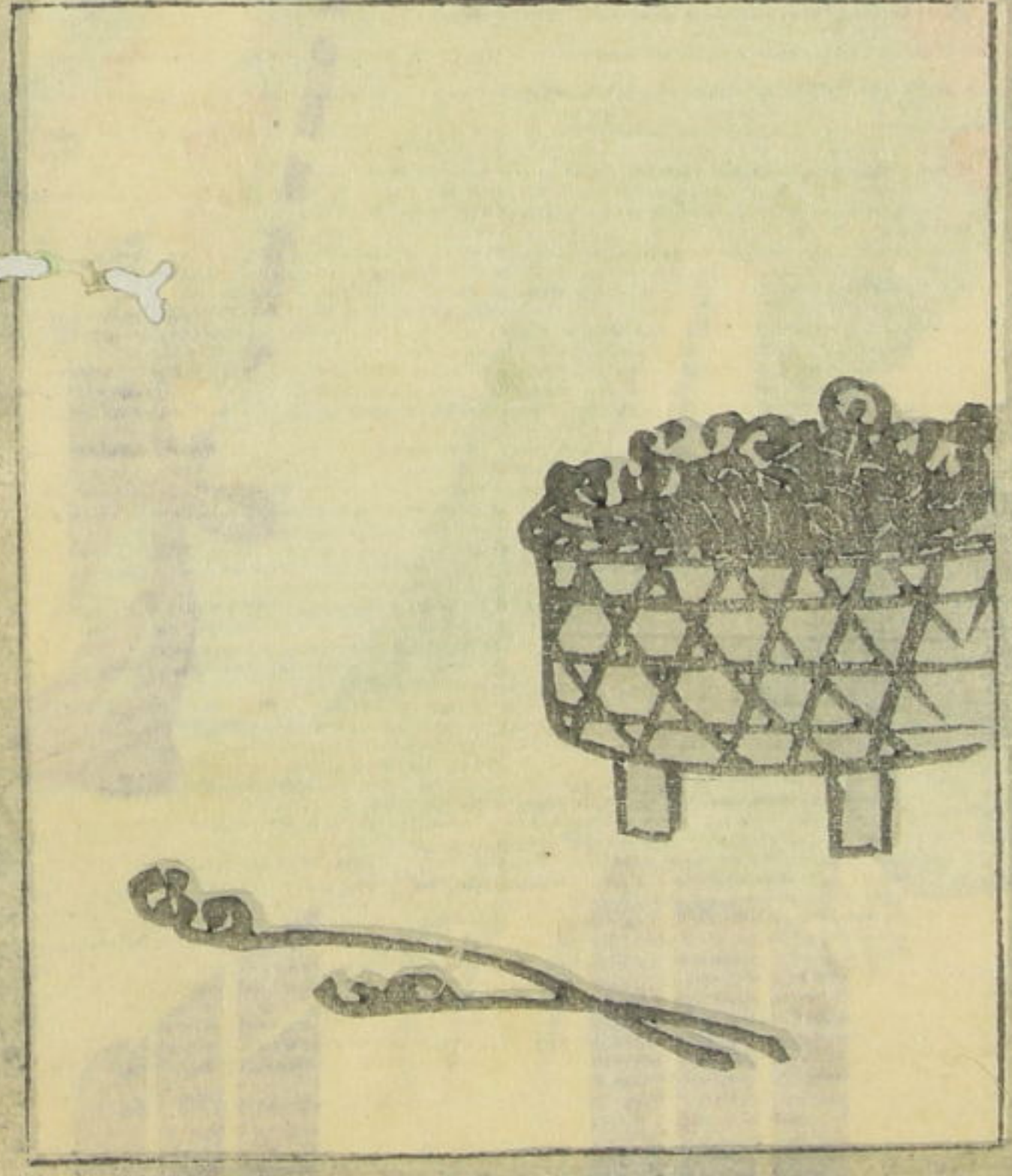
あは  
社  
あは

二編上

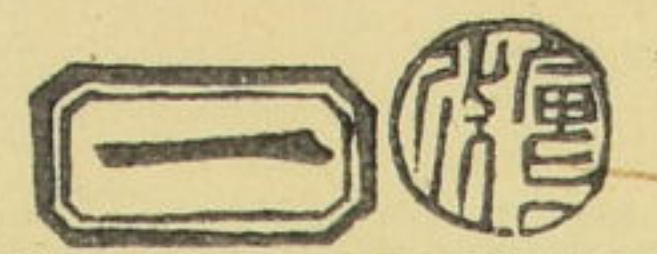


# 浅草の観音

二編上



あき草花  
くふ魚魚  
辻ねん  
ちむ



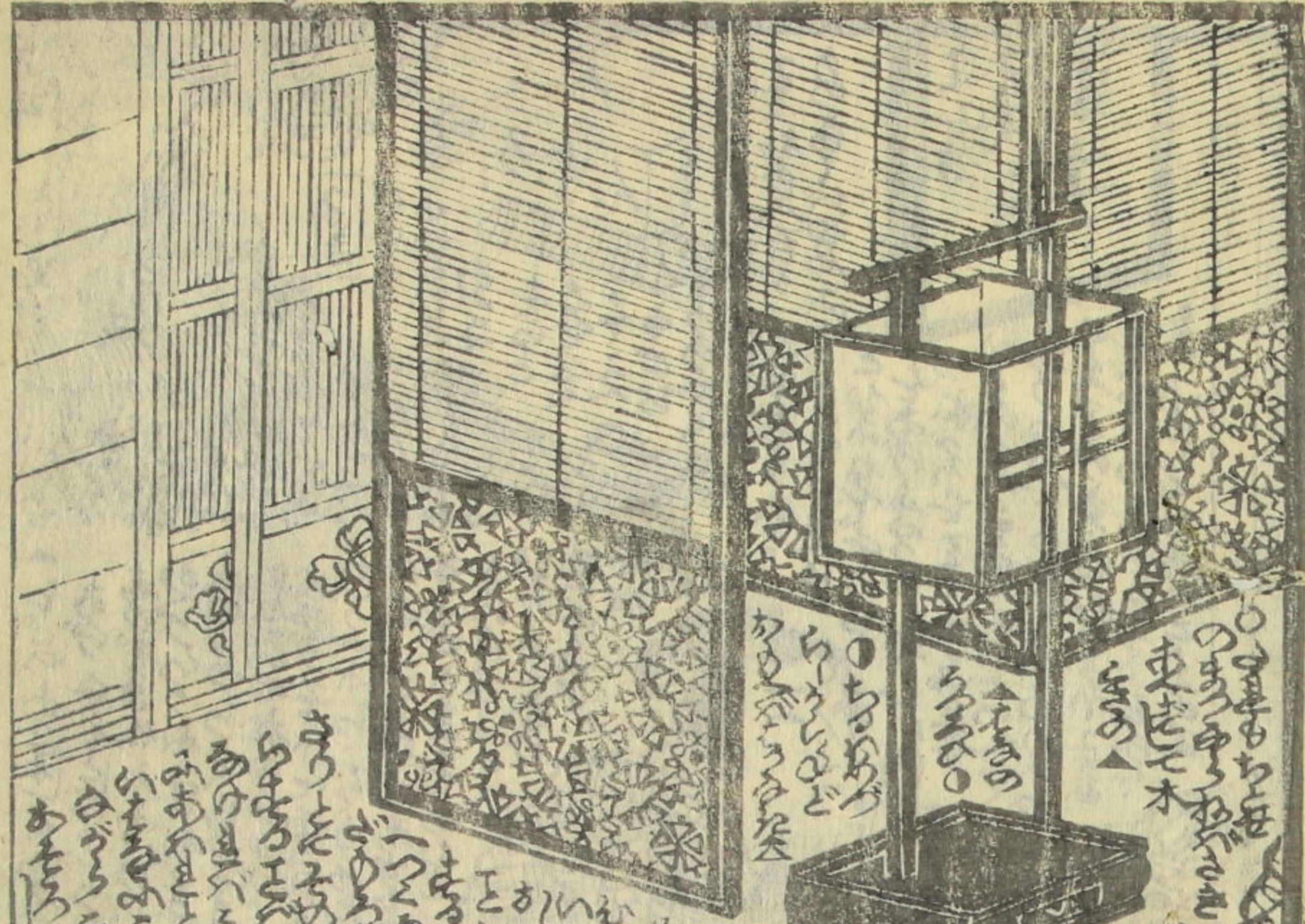
凡一帙二十張長くて二場短くて三場四場地を異入を異て見る人の目端  
 を新ふ草冊子の定法をいふも其事を結を後に残る奇楠薫  
 らせ衣の留志懐石食て茶と喫ぬ心ちのまきて癡痛き物あり  
 と云雲顧達のふふふも非且大擬其夏の結果をて一續ひ  
 不書綴る此愚作猶三篇不到るまも事ハ異と人物ハ僅十人  
 十一人同ト名壺も熟漆の深くあるのふふふんと飽らるるも心づり心  
 諄々一の證もあふれど解易いと專一ふ言餘をわくやうふ幽め  
 たる筆ハつと半面美人の聯よも額の三平二満の頬端張切  
 らし書詰るのう読み由徳用水茶舗の處女さゆ徒然あふ手不觸  
 らる浅草の観音の利益とあやぐ

慶應三年丁卯春新版

柳亭種彦







江戸時代  
この部屋は、  
障子で仕切られて、  
机と椅子が置かれています。  
障子の文様は、  
花や鳥の模様です。  
机の上には、  
茶碗や湯碗が置かれています。  
椅子は、  
座布団を敷いて使われます。  
この部屋は、  
主人の書斎として使われます。  
主人は、  
机の前で、  
読書や書写を行います。  
障子の文様は、  
季節の移り変わりを表しています。  
春は桜、夏は桐、秋は萩、冬は松竹梅の文様です。  
この部屋は、  
静かな空間で、  
主人の心を落ち着かせる場所です。



江戸時代  
この部屋は、  
主人の寝室として使われます。  
主人は、  
床に寝込みます。  
寝込みは、  
敷布団、中敷、上敷の3層構造です。  
寝込みの上には、  
掛け布団がかけられます。  
掛け布団は、  
季節によって変わります。  
夏は薄手の掛け布団、  
冬は厚手の掛け布団です。  
この部屋は、  
静かな空間で、  
主人の心を落ち着かせる場所です。





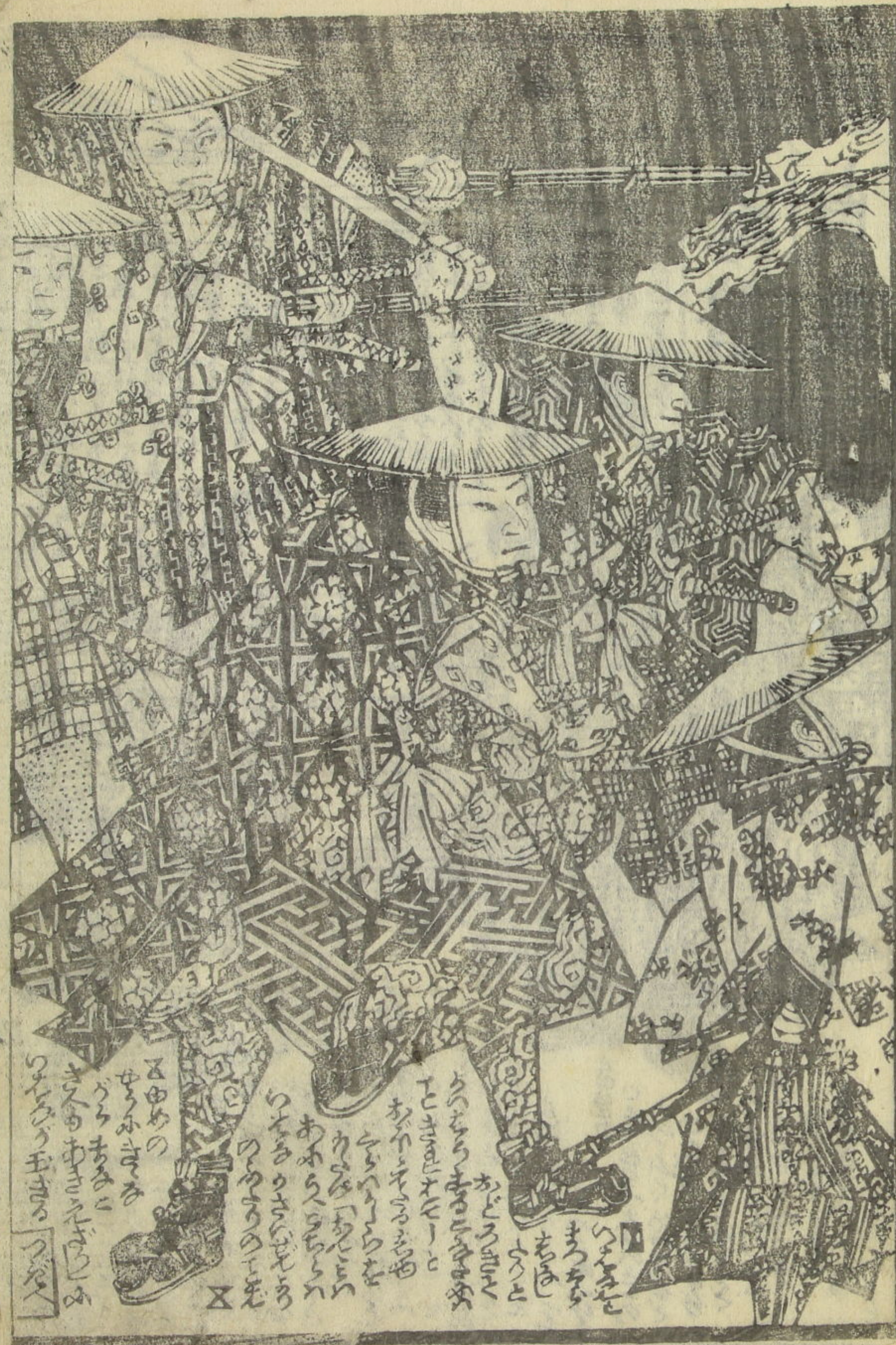










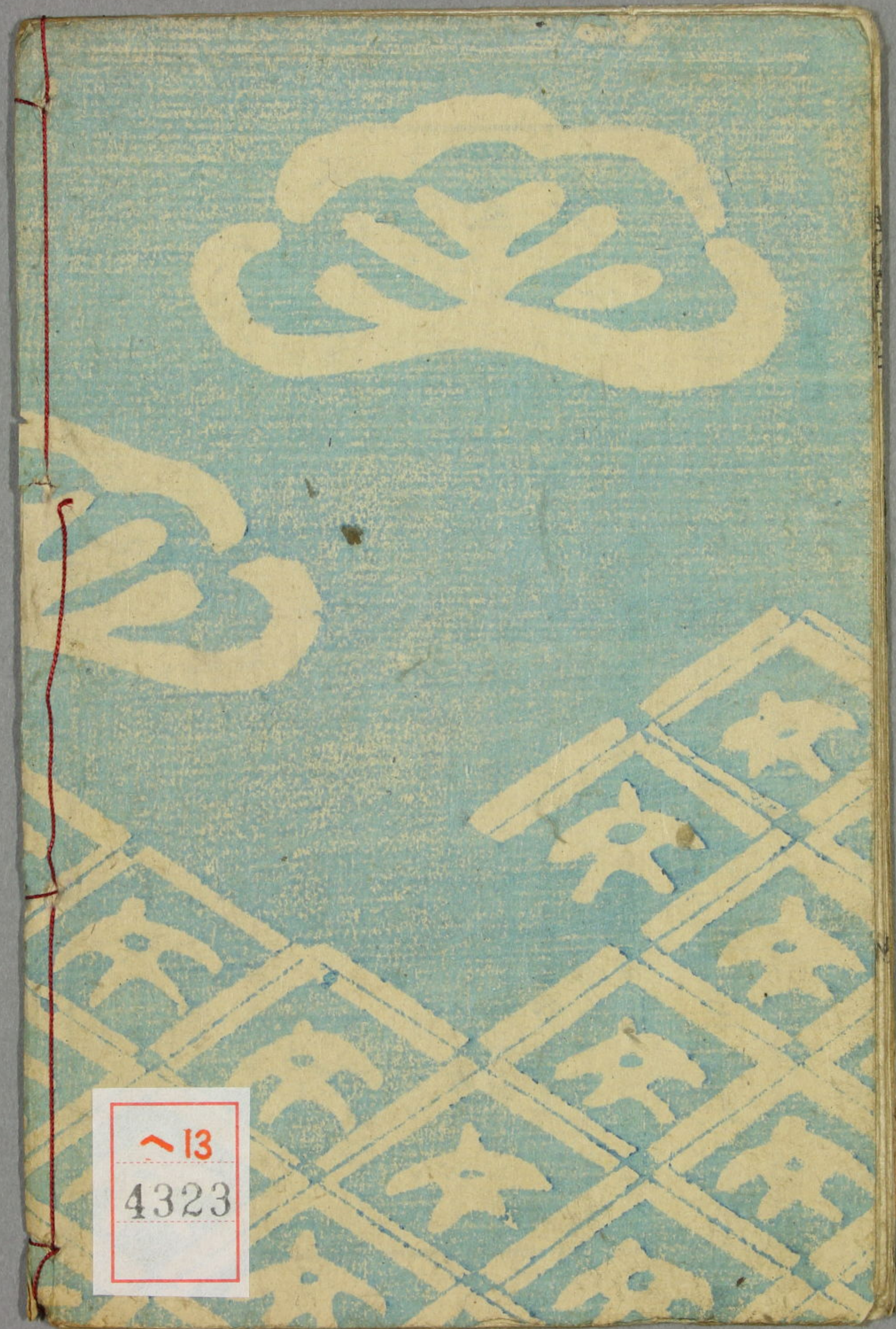


Handwritten Japanese text in vertical columns, likely a commentary or a list of names associated with the scene. The text is written in a cursive style, typical of Edo-period manuscripts.



Handwritten Japanese text in vertical columns, surrounding the central figure. The text appears to be a detailed description or a list of items related to the warrior's attire or the scene.





~13  
4323